

# 処理水の放出

## 「春から夏ごろ」

### 政府方針、漁協は反対

東京電力福島第一原発での処理水の海洋放出について、政府は13日、「今年春から夏ごろ」との方針を示した。設備工事の進捗や、

原子力規制委員会の使用前検査などを考慮。2021年4月の基本方針の「2年程度後」から、具体的に踏み込んだ形だ。

処理水の海洋放出は、21年4月に当時の菅義偉首相が方針を発表した。原子力規制委員会が東電の放出計画を認可したことを受け、地元の福島県と原発の立地2町が昨年8月、着工を了解。東電が放出に必要な海底トンネルなどの設備の工事を進めている。

放出設備について東電は、今年春までの完成をめ

ざすとする一方、悪天候などで工事が順調に進まなかった場合、完成が夏ごろになる可能性があるとしている。

小早川智明社長は会議後、今春までの完成目標は変わっていないとした上で「さまざまなプロセスを総合的に勘案して、国として春から夏ごろという形で幅を持たせたと認識している」と述べた。

政府は、風評被害対策として500億円規模の基金で漁業者を支援することを行動計画に盛り込む。ただ、地元漁協が「断固反対」の姿勢を崩さないなど、放出に対する不信もある。

(山野拓郎)